

市議団の視察 (1月20日～22日)

なくせ！子どもの貧困



日本共産党西宮市会議員団は、1月20日から22日にかけて、栃木県の小山市、宇都宮市、そして、東京の豊島区、文京区を訪問、視察しました。

栃木県小山市 子どもの貧困撲滅5カ年計画



オレンジリボン運動発祥の地、栃木県の小山市。子どもが虐待で死亡した事件が起こり、「二度と痛ましい事件を起こさない」との決意をこめ、子どもの虐待を防止するオレンジリボン運動がはじまりました。その小山市で、地元紙が小山市の貧困家庭を取り上げたのをきっかけに、市長が本部長となって「子どもの貧困・虐待防止対策本部」が設置され、「子どもの貧困撲滅5カ年計画」が策定されました。

この計画は、早期発見、生活支援、教育支援、就労支援、経済的支援、それを実行する支援体制の柱で具体化されています。とくに、早期発見に力を入れているのが特徴です。また、民家を借り上げNPO法人に委託し、調理・食事・入浴・洗濯・学習支援など、放課後に家庭的な環境のなかで過ごせる子どもの居場所を提供しています。



NPO法人 豊島子どもWAKUWAKUネットワーク



子どもをとりまく育ちの環境には、貧困だけでなく多種多様な困難があります。豊島区の委託を受けたNPO法人は、区内の公園を活用して子どもたちが遊べるプレイパークを運営しています。遊びのなかで聞こえてくる子どもたちのつぶやきから、貧困など子どもたちが抱える困難な実態が見えてくる。そうしたなかで、無料学習支援、子ども食堂、夜の児童館を取り組むようになり、行政と地域の大人たちとが一体となって子どもの育ちの環境を整えている、とのことでした。

栃木県宇都宮市 宮っ子ステーション事業

宇都宮市では、「宮っ子ステーション事業」と名づけられた放課後の児童健全育成事業がおこなわれています。特徴は、市が地域の運営委員会に事業を委託し、委託された運営委員会が、学童保育と放課後子ども教室を運営するというものです。いま、宇都宮市の学童保育の定員はどことも60人から70人ですが、施設を増やして、国がしめた基準の40人定員をめざすとしています。

西宮市は、学童保育事業において指定管理者制度を導入し、来年度から株式会社を参入させます。保育事業などの福祉事業に利潤最優先の株式会社に管理を委託することは許されません。



豊島区 新庁舎整備



再開発手法で新築した豊島区庁舎を見学しました。

文京区 自転車の安全利用とコミュニティーバス

新道路交通法にあわせた自転車の安全利用についてどう対応するか、どこの自治体も頭を悩ませています。文京区では、安全教室などマナー啓発に力を入れている、とのことです。

文京区は、「Bーぐる」という名のコミュニティーバスを走らせており、運賃は100円。区内を2コースに分け区民が利用しやすくしています。西宮でもコミュニティーバスの運行を！

高くそびえる上階はマンション。区役所は1階の一部と3階から9階までの部分。